

「魅力創造・交流の未来都市」の実現に向けて（魅力・交流・文化分野）事業評価一覧（令和6年度に実施した事業）

| NO. | 事業名 | 政策の柱 — 政策 | 施策名 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 事業の目的 | 事業内容 | | 事業の 進捗 | R6 事業費 (千円) | 開始 年度 | 日本一 施策 事業 | 「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」 | 見直し (予定) |
|-----|---------------------------|-----------------|-------------------|--------------------------------|--|--|--|-----------|-------------------|----------|-----------------|--|-------------|
| | | | | | | 対象者・物 (誰・何に) | 取組(何を) | | | | | | |
| 1 | 農林公園整備事業 ろまんちっく村魅力向上事業 | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の 創出 | | 農林業観光交流施設 の充実 | 指定管理者 | 施設の維持保全、魅力向 上に伴う整備等 | 計画 どおり | 74,593 | H8 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】：観光施設の維持管理・ろまんちっく村魅力向上事業】 ・施設の修繕工事を実施するなど、安定的な管理運営に取り組んだ。 ・再整備に向けた施設の現状分析と利用者等のニーズ調査を行った結果を踏まえ、「物販・飲食機能、子どもの遊び場の拡充や体験農場の更なる活用」などの再整備における方向性を取りまとめた。 ・今後とも、本市観光を牽引する観光周遊拠点となることを目指していく必要がある。</p> <p>【②今後の取組方針】：適切な管理運営・ろまんちっく村魅力向上事業】 ・引き続き、指定管理者と協議を行いながら、安定した施設運営に努めるほか、ろまんちっく村の再整備を見据えつつ、効果的・効率的な整備を実施していく。 ・再整備基本計画の策定に向けて、対話型市場調査を行い、実現性の高い導入機能、必要となる施設規模、具体的な整備・運営の事業手法等を整理する。</p> | 拡大 |
| 2 | 地域交流館整備事業 | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の 創出 | | 農林業観光交流施設 の充実 | 指定管理者 | 施設の維持保全等 | 計画 どおり | 55,320 | H20 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】：観光施設の維持管理】 ・施設の維持修繕工事を計画的に実施し、適切な管理運営に努めたところである。 ・今後とも、指定管理者と連携しながら、地域の交流拠点として新たな利用促進策を行うなど、更なる誘客促進を図る必要がある。</p> <p>【②今後の取組方針】：適切な管理運営】 ・引き続き、指定管理者と連携を強化しながら、施設の適切な管理運営による安定的な運営に努めるとともに、地域の交流拠点として、各イベントの開催や上河内地域と連携した事業等を実施するなど、施設の魅力向上に取り組んでいく。</p> | |
| 3 | 観光宣伝事業 観光セールス強化事業 | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の 創出 | | 各種媒体を活用しな がら本市の魅力ある 観光情報の発信を行 うとともに、自治体や 観光関係団体と連携 しながら、時期を捉え た首都圏等でのプロ モーション等により情 報発信を行うことで、 本市への誘客促進を 図る | 首都圏及び新幹線 沿線都市を中心とし た、本市外に在住す る方 | ・首都圏在住の若年層に 向けに協会HPやSNSを 活用した情報発信 ・本市来訪の契機とする ためのトップセールス、メ ディアの活用、キャンペ ンキャラバンを実施 ・観光パンフレット(るるぶ 宇都宮、餃子、ジャズ、カ クテルマップ等)の配布 | 計画 どおり | 22,372 | H23 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】：効果的な観光宣伝事業の実施】 ・全面リニューアルした協会ホームページにおいて、首都圏若年層向けの市民参加型情報発信の仕組みとして、市民ライター制度を導入したほか、本市の魅力である“食”を伝えるため、地元飲食店とのつながりが深い栃ナビと連携した飲食店情報の発信を実施した。 ・更なる誘客促進を図るため、発信力のある媒体の活用や協会ホームページ内のコンテンツの更なる充実、官民連携をより強化した観光プロモーションを展開する必要がある</p> <p>【②今後の取組方針】：戦略的な観光PRの推進】 ・首都圏への発信力が高い「東京カメラ部」などの媒体を活用した観光プロモーションを実施するとともに、好評を得ている市民ライターを増員して掲載内容の充実を図るほか、市内観光事業者と連携したSNSの共同投稿を実施するなど、ホームページの閲覧数の増加を図る。</p> | |
| 4 | 栃木県アンテナショップ運営事業 (負担金) | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の 創出 | | 首都圏において、本 市観光情報を発信す ることで、本市への観 光誘客を図る | 栃木県アンテナ ショップ「とちまる ショップ」 | 本市加工品の販売や観 光情報の発信などアン テナショップに係る運 営経費の一部を負担 | 計画 どおり | 2,968 | H24 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】：アンテナショップの活用促進】 ・とちまるショップの来店者は増加している中、本市のイベントに合わせた本市の特設ブースの設置など、首都圏の主要な観光スポットにあるという、とちまるショップの立地や特徴を存分に活かしながら積極的な観光PR活動を展開し、市の知名度やブランドの向上による誘客促進を図った。 ・引き続きアンテナショップを活用して、首都圏における効果的な情報発信を行い、誘客促進を図る必要がある。</p> <p>【②今後の取組方針】：本市観光資源の更なるブランド力の向上】 ・栃木県や指定管理者等と意見交換を行いながら、本市観光資源の魅力発信に取り組むとともに、更なる誘客促進を図るため、効果的なイベントスペースの活用についても検討し、観光客等に向け、積極的な情報発信を展開していく。</p> | |
| 5 | ふるさと宮まつり事業(補助金) | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の 創出 | | 「ふるさと宮まつり」の 開催を支援すること で、郷土文化の醸成 や本市のイメージア ップにつなげる | ふるさと宮まつり開 催委員会 | 宮まつりの開催に係る費 用の一部を補助 | 計画 どおり | 15,500 | S51 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】：知名度向上と誘客促進】 ・「ふるさと宮まつり」の開催を支援することにより、民間の団体や市民が相互に協力し合う本市最大の夏の祭典としての一体感の向上や郷土愛の醸成に加え、来場者数60万人を記録するなど多くの観光客が本市を訪れ、中心市街地の活性化や本市の誘客促進に寄与することができた。 ・引き続き、継続的な開催に向けた適切な手法の検討などについて、関係団体と連携しながら、支援をしていく必要がある。</p> <p>【②今後の取組方針】：実行委員会への持続的な支援】 ・ふるさと宮まつりは、本市最大の夏の祭典として市内外からの集客力が高く、本市の知名度向上と観光振興を図り、本市への誘客へつなげる上で効果的なイベントであることから、引き続き支援をしていく。</p> | |
| 6 | うつのみや花火大会事業(補助金) | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の 創出 | | 「うつのみや花火大 会」の開催を支援す ることで、本市の知名 度向上やイメージア ップにつなげる | 特定非営利活動団 体うつのみや百年花 火 | 「うつのみや花火大会」の 開催に係る費用の一部 を補助 | 計画 どおり | 3,000 | H19 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】：知名度向上と誘客促進】 ・ライトラインとの連携により観覧者数が約3万人となり、本市の知名度向上やイメージアップなどにつなげることができた。 ・引き続き、関係団体と連携しながら、市民をはじめ多くの観光客に愛される花火大会となるよう支援していく必要がある。</p> <p>【②今後の取組方針】：実行委員会への持続的な支援】 ・今後も、全国に誇れる花火大会であるうつのみや花火大会の支援を通じ、本市の知名度向上や誘客促進を図っていく。併せて、令和5年度に開業したライトラインを活用することで来場者の利便性を向上させるため、関係各所との調整・連携を図っていく。</p> | |

| NO. | 事業名 | 政策の柱 — 政策 | 施策名 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 事業の目的 | 事業内容 | | 事業の 進捗 | R6 事業費 (千円) | 開始 年度 | 日本一 施策 事業 | 「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」 | 見直し (予定) |
|-----|---------------------|-----------------|---------------|--------------------------------|--|-----------------|--|-----------|-------------------|----------|-----------------|---|-------------|
| | | | | | | 対象者・物 (誰・何に) | 取組(何を) | | | | | | |
| 7 | フェスタin大谷事業(交付金) | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | | 「フェスタin大谷」の開催を支援することで、本市の観光拠点である大谷地域観光を推進する | フェスタin大谷実行委員会 | フェスタin大谷の開催に係る費用の一部を交付 | 計画どおり | 3,000 | H13 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):大谷の魅力発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大谷地域を舞台とした小説「百年厨房」に登場するメニューの再現、マルシェ&ミュージックステージ、大谷石あかりの展示、スタンプラリーの実施などに加え、新たな取組としてプロジェクトマップを実施し、子どもから高齢者まで幅広い世代が楽しめる話題性のあるイベントを開催することで、大谷地域の魅力発信を行った。 ・引き続き、県内外の観光客に対し、大谷をはじめとした本市の魅力を広げ、誘客や周遊促進につながるよう、実行委員会を支援していく必要がある。 <p>【②今後の取組方針:大谷の観光振興の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、大谷地域への更なる誘客促進を図るため、県内外の観光客へ、「石の里・大谷」を広くPR、また、会場大谷を拠点とした北西部地域の魅力発信にもつながるよう、「フェスタin大谷実行委員会」を支援していく。 | |
| 8 | 外国人の誘客促進事業 | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | | 外国人観光客の誘客促進に取り組むことで、市内経済の活性化を図る | 外国人観光客 | <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド誘客に向けた方針の作成 ・海外に向けた観光プロモーション ・外国語版パンフレットの作成・配布・PR | 計画どおり | 4,671 | H27 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):インバウンド誘客に向けた戦略の策定支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的に外国人観光客数が増加する中、本市においても、外国人観光客数の増加と観光消費額の拡大を図るため、日光市や本市の外国人観光客宿泊者に対するアンケート調査や、観光庁・県等の来訪等データをもとに市内観光事業者と意見交換を行うなど、観光コンベンション協会におけるインバウンド戦略の策定を支援した。 ・今後は、策定した戦略に基づき、外国人観光客に向けたコンテンツ造成及び効果的なプロモーション、受入体制の整備を行うとともに、変化するインバウンドの状況に迅速に対応できるよう、引き続き、市内観光関係事業者や日光市等と適宜意見交換を行いながら、官民一体となって取り組んでいく必要がある。 <p>【②今後の取組方針:更なるインバウンドの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日光市や観光事業者、国際MICE主催者などと連携し、本市の観光施設を活用した魅力を訴求するとともに、飲食店等における多様な食文化への対応など、インバウンドを含む外国人来訪者の受入環境の向上を図る事業を実施する。 | |
| 9 | おもてなし推進委員会運営事業(負担金) | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | | 市民や事業者のおもてなし能力の向上させ、本市を訪れた観光客に、「来てよかった」、「また訪れたい」と感じていただき、本市への再訪につなげる | おもてなし推進委員会 | 観光ボランティアの育成やおもてなしの向上に要する経費の一部を負担 | 計画どおり | 400 | H20 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):官民が連携したおもてなし体制の構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・官民で組織された「おもてなし推進委員会」において、市民や事業所など市全体でおもてなし能力を向上させるため、おもてなしセミナーの実施やおもてなし出前講座などを実施することにより、市民や事業者の「おもてなし力」の向上が図られた。 ・観光入込客数が増加し多くの人々が来訪することから、快適な観光につなげるためには良質な観光案内ができるガイド者がより必要となってくる中、ボランティアガイド養成講座において、講師であるシティガイド協会と連携し、受講生が観光客の目線に立ったガイドができるようスキルアップを図る必要がある。 <p>【②今後の取組方針:更なるおもてなしの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市での観光の満足度を高め、再訪につながるよう、更なる「おもてなし力」の向上と充実を図るとともに、その実施にあたっては、本市を訪れて良かったと満足してもらえるよう、「おもてなし推進委員会」との連携を更に強化し、講座やセミナーの開催などに取り組み、市域一丸となっておもてなしを推進していく。 | |
| 10 | 観光コンベンション協会事業(補助金) | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | | 観光振興の中核的役割を担う宇都宮観光コンベンション協会の支援を行うことで、本市への観光誘客による市内経済の活性化を図る | 宇都宮観光コンベンション協会 | 観光推進事業やフィルムコミッションなどの事業運営に要する経費の一部を補助 | 計画どおり | 109,284 | H12 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):官民一体となった観光振興と協会の更なる機能強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内観光事業者とのネットワークを活かした旅行商品の造成や観光コンベンション協会インフォメーションセンターを活用したワークショップの開催を実施するなど、本市の更なる観光誘客や観光客の周遊促進に取り組んだ。 ・今後とも、旅行商品の更なる造成や事務所を活用したワークショップの開催に加え、リニューアルした協会ホームページを活用したプロモーションを行うなど、首都圏若年層をターゲットとした戦略的な観光誘客による市内経済の活性化を図っていくためには、協会が観光における中核的な機能を担えるよう、引き続き支援していく必要がある。 <p>【②今後の取組方針:協会と連携した柔軟かつ機動的な観光事業の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当協会が本市の観光における中核的な役割として、市内観光事業者と柔軟かつ機動的に連携し、本市の魅力を最大限に活かした旅行商品の造成などの観光地づくりに取り組むことができるよう、引き続き当協会を支援していく。 | |
| 11 | 観光コンベンション協会事業(負担金) | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | | 本市の玄関口でもあるJR宇都宮駅観光案内所において、来訪者へ丁寧でわかりやすい観光案内を行うことで、おもてなしの向上を目指す | 宇都宮観光コンベンション協会 | 観光案内所などの維持管理及び運営事業に要する経費を負担 | 計画どおり | 9,341 | H12 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):観光客への案内充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MICEの開催をはじめ3X3オリンピック予選の開催などにより、多くの観光客が訪れる中、各種パンフレットの配布や本市の観光情報の提供など、おもてなしの推進に取り組む、本市の観光客の満足度向上や再訪意欲の醸成に取り組んだ。 ・今後とも多くの観光客の来訪が見込まれることから、引き続き観光情報の発信やおもてなしの充実に取り組んでいく必要がある。 <p>【②今後の取組方針:案内機能の更なる充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も観光客が快適に観光できるよう、観光情報の発信や外国人観光客も含めた案内機能の充実を図るなど、宇都宮観光コンベンション協会や市内観光事業者と連携しながら、引き続き支援していく。 | |

| NO. | 事業名 | 政策の柱 政策 | 施策名 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 事業の目的 | 事業内容 | | 事業の 進捗 | R6 事業費 (千円) | 開始 年度 | 日本一 施策 事業 | 「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」 | 見直し (予定) |
|-----|--------------------|------------|---------------|--------------------------------|--|---|--|-----------|-------------------|----------|-----------------|---|-------------|
| | | | | | | 対象者・物 (誰・何に) | 取組(何を) | | | | | | |
| 12 | 宇都宮観光推進委員会事業(交付金等) | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | | DESTINATION キャンペーンをきっかけに発足した「宇都宮市DC推進委員会」での取組を継承し、観光事業者等との連携をしながら観光事業に取り組み、官民一体となって本市観光を推進し、地域経済の活性化に寄与する | 宇都宮観光推進委員会 | 事業実施に係る経費を補助 | 計画どおり | 7,726 | H28 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):環境変化合わせた観光振興】</p> <p><まちなか周遊促進事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の玄関口であるJR宇都宮駅にて、改札を出た観光客等に対して本市のナイトタイムコンテンツ(カクテル、クラフトビール等)を周知することで、まちなかへの周遊促進を図った。 民間団体の協力を受け、お盆期間や連休中にまちなか案内所を設置し、餃子通りに並んでいる観光客へLINE公式アカウントへつながるカード(ミニサイズ)を配布することで、本市全体の観光情報の発信を図った。 餃子目的の観光客に対して、当日利用できるクーポンを景品としたまちなか周遊型謎解きラリーを実施し、まちなか周遊の促進及び市内滞在時間延長の促進を図った。 引き続き、餃子を目的に訪れた観光客の更なる周遊促進を図る必要がある。 <p><北西部観光振興事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ろまんちっく村を起点とした北西部周遊バス企画を実施し、北西部観光振興を図った。 引き続き観光施設が点在する北西部を二次交通でつなぐことで更なる周遊促進を図る必要がある。 <p>【②今後の取組方針:オール宇都宮の観光振興と地域経済の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「餃子を目的に訪れた観光客に対する周遊促進事業」を強化するため、より観光客が「まちなか観光」を楽しめる周遊促進事業を実施していく。 ろまんちっく村・大谷資料館・若山農場に加え、新たな北西部の観光事業者を巻き込むことで、連携を更に強化し、周遊促進の充実を図る。 | |
| 13 | 観光振興促進事業(補助金) | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | | 事業者が行う、観光施設の改築や備品の購入等を支援することで、本市の更なる観光振興を図る | ・本市に体験型観光施設を設置しようとする事業者、工場、伝統工芸品店その他商店等 ・大谷エリア等での新たな飲食店出店希望者 | 整備に要する経費の一部を補助 | 計画どおり | 8,000 | H18 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):観光施設・事業所出店への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大谷エリアをはじめ、市内に新たな出店を支援することにより、体験型観光や観光客へのおもてなしの向上が図られた。 引き続き、更なる本市の観光振興を図るため、当該補助金を活用した事業者への支援を継続していく必要がある。 <p>【②今後の取組方針:補助金の活用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、ものづくり等の体験施設や飲食・土産品販売の施設を整備する事業者への支援を行い、体験型観光の更なる推進と飲食店舗等の出店をはじめとした賑わいの創出やおもてなしの充実に取り組んでいく。 | |
| 14 | 外国人観光客受入体制の整備 | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | | 外国人観光客が快適に市内旅行をしてもらえるよう、市内の受入環境を整備する。 | 市・民間団体等 | ・外国人観光客向け公衆無線LANの整備、運用維持管理 ・観光施設等における案内看板やホームページ、メニューなどの多言語化に係る費用の一部を交付 | 計画どおり | 4,113 | H29 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):外国人観光客の受入環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客の受入体制充実のため、公衆無線LANの機器更新や維持管理などを行うほか、市内観光施設において多言語対応が促進されるよう、外国人観光客受入体制整備補助金による支援に取り組み、本市における受入体制の充実を図った。 引き続き、受入体制の充実に向け、外国人観光客のニーズを的確に捉えながら、補助金の制度の周知など、環境の整備促進に取り組んでいく必要がある。 <p>【②今後の取組方針:外国人観光客の受入環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後は、外国人観光客のニーズを捉えた受入環境の整備や、パンフレットやタブレットを活用した多言語による観光案内の充実を図り、インバウンド需要の拡大に併せた受入環境の整備促進に取り組んでいくとともに、補助制度の利用促進のため、積極的な周知を行っていく。 | |
| 15 | 観光拠点創出事業 | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | 戦略事業 | 本市の特色を活かした観光拠点を整備することで、メディア等への露出を促し、市外からの誘客促進を図る | 餃子通り(宮島町通り) | ・餃子をテーマとした様々な装飾 ・マスメディア等を活用した情報発信 ・餃子や大谷石など本市の観光資源をモチーフにしたグッズの配布 | 計画どおり | 403 | H13 | 独自性 | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):官民一体となった観光拠点の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光ナビにおいて宇都宮餃子の由来や楽しみ方、市民が薦める餃子店などの情報発信に取り組むとともに、市民ライター制度において、餃子をフックとした宇都宮の観光スポットやおみやげを紹介するなど餃子を活用した本市の魅力の発信を行った。 混雑時には餃子通りに警備員を配置し、観光客が安全・安心に餃子通りを楽しめるよう受入体制の整備を行いつつ、シティガイド協会と連携しながら、餃子通りに来訪する観光客に対して観光案内を行うことで、更なる市内周遊促進を図った。 GYOZAモニュメントや餃子型街灯については定期的な清掃などを行い、この取組がニュースに取り上げられるなど評価された。 大規模イベント等において、餃子通りをはじめとした市内各観光拠点のPRを行いながら、餃子・カクテル・ジャズ・大谷石を用いた商品等を配布するなど、餃子をきっかけとした市内複数のスポットをまわる周遊促進につなげた。 引き続き、関係事業者等と連携しながら、観光客のニーズやターゲット層を捉えながら、新たな観光スポット等の磨き上げに取り組んでいく必要がある。 <p>【②今後の取組方針:観光拠点の更なる磨き上げ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報発信力が高く旅行にもアクティブである若年層をターゲットにし、より一層、観光客が餃子通りを楽しみ・満喫できるようなコンテンツの検討などの餃子通りの磨き上げや、餃子通りを拠点とした市内の周遊促進につながるよう中心市街地や北西部の魅力な観光スポットのPRなど、民間事業者等と連携しながら、餃子をきっかけとした誘客促進につながるよう観光資源の更なる磨き上げや周遊促進に取り組んでいく。 | |

| NO. | 事業名 | 政策の柱 — 政策 | 施策名 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 事業の目的 | 事業内容 | | 事業の 進捗 | R6 事業費 (千円) | 開始 年度 | 日本一 施策 事業 | 「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」 | 見直し (予定) |
|-----|---------------------------------|-----------------|---------------|--------------------------------|---|---|--|-----------|-------------------|----------|-----------------|--|-------------|
| | | | | | | 対象者・物 (誰・何に) | 取組(何を) | | | | | | |
| 16 | 森林公園の再整備 | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | 戦略事業 | 自然を活かした体験型観光地としてより一層観光客を誘客するため「市森林公園再整備方針」に基づき民間活力を最大限に活用した森林公園の魅力向上を行う | 森林公園指定管理者 | 施設の維持保全、魅力向上に伴う整備等 | 計画より遅れ | 17,063 | R3 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):森林公園再整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林公園再整備の魅力向上に係る指定管理者と早期着手に向けた協議・調整を実施した。 一方で、アウトドア業界ブームの沈静化など、森林公園の再整備を取り巻く環境が大きく変化していることから、指定管理者から提出された事業計画の精査・検証、状況に応じたあり方の見直しを行う必要がある。 <p>【②今後の取組方針:事業計画書等の精査・検証】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関や専門家の意見をもらいながら、指定管理者から提出された事業計画書等の精査・検証を進めていく。 | |
| 17 | 大谷観光景観形成事業(補助金) | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | SDGs 好循環P 戦略事業 | 地域団体が実施する観光景観形成を支援し、大谷地域の観光振興を推進する | 大谷地区総合開発推進協議会 | 大谷・多気地区の美観維持(奇岩の雑草等除去、樹木剪定など)に係る費用の一部を補助 | 計画どおり | 3,000 | H15 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):地元団体の主導による観光景観の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大谷・多気地区の良好な景観づくりに向けた地元団体による活動への支援を行い、観光景観の向上を図った。 引き続き観光入込客数の回復等に伴い、大谷周辺地域ならではの資源の一つである景観の重要性が高まっていることから、活動主体である地域団体と連携し、今後とも観光景観の維持・向上に取り組む必要がある。 <p>【②今後の取組方針:大谷ならではの景観を活用した観光振興の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> グリーンスローモビリティ運行など本市事業もふまえ、大谷地区総合開発推進協議会と優先的に整備する箇所について協議しながら、地元団体と連携のもと大谷ならではの景観をはじめとした地域資源を活用し、奇岩群などのスポットや周遊ルートなどの景観づくり等に取り組み、地域の観光振興を推進する。 | |
| 18 | 大谷特性活用支援事業(補助金) | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | SDGs 好循環P 戦略事業 | 大谷の地域資源を活用した事業開発や学術研究等を支援し、新たな魅力となる地域産業の創出を推進する | ・市内に事務所又は事業拠点を有する法人、LLP ・国内の高等教育機関又は当該高等教育機関に所属する教職員を代表とする研究グループ | 大谷の地域資源を活用した事業開発や学術研究等の取組に係る経費の一部を補助 | 計画どおり | 4,113 | H23 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):新たな観光資源の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大谷石の工学的特性や質感、大谷石採取場跡地での飲料の熟成効果などの研究への支援により、大谷石の風化や素材としての特徴、飲料の長期間熟成の方法などについて検討が促進された。 大谷石の風合いに関する感性工学的な解析や、古材の利活用策などの研究への支援により、大谷石産業の持続化に向け、大谷石の古材廃材を活用した新たな事業展開などについて検討が促進された。 大谷石採取場跡地等の地域観光スポットの周遊向上に向けた支援により、地域資源の更なる魅力向上や来訪者への周遊・滞在環境の向上を図った。 引き続き、地域資源の更なる有効活用を図りながら、地域の新たな魅力などに繋がる事業創出を図っていく必要がある。 <p>【②今後の取組方針:地域資源を活用した新事業創出の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで支援を行ってきたコンテンツが持続可能な事業として地域に定着するよう、大谷エリアの観光周遊などの取組とも連動しながら支援等を行う。 地域資源の更なる活用や価値の向上、並びに地域産業の振興等に向け、引き続き地域資源に関する学術研究に対する支援に取り組み、新事業創出の促進を図る。 | |
| 19 | 大谷地域資源活用事業(冷熱エネルギーを活用した大谷地域の振興) | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | SDGs 好循環P | 冷熱エネルギーを活用した事業を推進し、大谷地域の振興を図る | 冷熱エネルギー活用機器を導入し、継続して冷熱エネルギー活用事業を行う事業者 | 冷熱エネルギー活用機器の導入に係る経費の一部を補助 | 計画どおり | 4,000 | H24 | 独自性 | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):大谷夏いちごの産地化の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上駒生地区において大谷夏いちご栽培に取り組んでいる事業者への冷熱エネルギー活用機器導入支援により、大谷夏いちご栽培の生産環境の向上を促進した。 栽培や冷熱の活用などの技術確立や人材確保、販売促進等に係る支援により、大谷夏いちご栽培の安定化を図り、産地化を一層促進していく必要がある。 <p>【②今後の取組方針:冷熱エネルギーの利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域ならではの資源である冷熱エネルギーについて、SDGsや脱炭素化の推進に効果が期待できることから、冷熱エネルギーを活用した事業や効果について市内外の事業者等へ積極的に周知や提案を行い、利用促進を図る。 | |
| 20 | (公財)大谷地域整備公社運営費補助金 | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | SDGs | 大谷石採取場跡地等の安全対策を総合的に推進する | (公財)大谷地域整備公社 | 大谷地域の安全対策を行う大谷地域整備公社の運営費の一部を補助(栃木県2:宇都宮市1) | 計画どおり | 45,796 | H2 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):観測システムの運用による迅速な対応等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大谷地域整備公社の運営費の補助により、観測システムによる採取場跡地での振動発生等の常時監視・解析等を実施するとともに、振動観測時においても、県・市・公社等で連携を図り、地域住民への迅速な情報提供や、庁内関係部署への伝達など適切な措置を行った。 今後も大谷地域の市民生活の安定化に向け、関係機関との連携により、大谷石採取場跡地の安全対策に取り組んでいく必要がある。 <p>【②今後の取組方針:着実な安全対策の遂行】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大谷地域の安全対策の推進及び市民生活の安定を図るため、観測システム等の安全対策の実施主体である大谷地域整備公社の運営支援を行うとともに、大谷石材協同組合による埋め戻し事業などの取組についても、引き続き関係機関と連携を図りながら着実に推進する。 | |

| NO. | 事業名 | 政策の柱 — 政策 | 施策名 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 事業の目的 | 事業内容 | | 事業の 進捗 | R6 事業費 (千円) | 開始 年度 | 日本一 施策 事業 | 「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」 | 見直し (予定) |
|-----|---------------------------|-----------------|---------------|--------------------------------|---|----------------------|--|-----------|-------------------|----------|-----------------|--|-------------|
| | | | | | | 対象者・物 (誰・何に) | 取組(何を) | | | | | | |
| 21 | 観光地インフラ整備事業 | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | SDGs 好循環P 戦略事業 | グリーンスローモビリティやワンデーパスポートの運用などにより、観光交通環境の向上を図る | 市民、本市来訪者 | ・交通混雑の緩和や周遊性の向上などに向けてグリーンスローモビリティの運行等を実施 ・地域内の周遊の魅力向上や滞在時間の延伸などに向けてワンデーパスポートの運用等を実施 | 計画 どおり | 23,000 | R1 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】周遊促進策を通じた滞在時間などの拡大、繁忙期の交通渋滞緩和】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内の滞在時間や消費額の拡大に向け、観光施設の入場料や飲食店のクーポン、並びにグリーンスローモビリティでの周遊をセットにしたワンデーパスポートの長期間の販売などを実施した。 ・グリーンスローモビリティの運行体制の最適化に向けて、地域団体に運行業務の一部を依頼するなど、委託事業者や地域ツアーガイド等と連携し改善を実施した。 ・繁忙期の交通環境向上に向けた取組として、ゴールデンウィークとお盆にパーク&バスライドを実施した。 ・目標とする120万人の観光入込客数を見据え、引き続き周遊サービスの取組や、交通環境向上に向けた適切な対策を検討していく必要がある。 <p>【②今後の取組方針：大谷地域の観光交通の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーク&バスライド等の検証結果について「大谷地域観光交通対策推進会議」での議論・検討を深めながら、繁忙期の交通環境の向上に取り組むとともに、地域主体のグリーンスローモビリティの安定した運営に向け、ガイドドライバーの人材確保・育成や運行管理体制の強化に取り組む。 | 改善 |
| 22 | 大谷魅力発信事業 (エリアマネジメント事業) | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | SDGs 好循環P 戦略事業 | 持続可能な観光まちづくりの推進に向けた伴走支援により、地域の主体性や一体感の醸成を図る | 大谷地域関係者 | ・地域主体による観光まちづくりの検討・実践に向けた関係者による勉強会やワークショップ等の運営支援を実施 | 計画 どおり | 6,999 | R6 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】地域が主体となった勉強会・ワークショップの開催、大谷の将来像の作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強会やワークショップを通じて地域の関係者が集まり意見交換をするための機会を創出した。 ・ワークショップを通じて地域の関係者とともにまちづくりの方向性を検討・整理し、目指すべきまちの姿を共有できる「大谷地域の将来イメージ」を作成した。 ・持続可能な観光まちづくりを推進していくためには、理想とする「大谷地域の将来イメージ」の実現に向けた取組の支援をしていく必要がある。 <p>【②今後の取組方針：地域主体の観光まちづくり活動の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の地域振興の機運の高まりを逃さず、引き続き勉強会・ワークショップの開催や「大谷地域の将来イメージ」の実現に向けた地域の取組の支援をすることで、地域の関係者が集まり意見交換の場を創出し、持続可能な観光まちづくりの推進を図る。 | 改善 |
| 23 | 大谷公園・大谷景観公園の再整備事業 | IV-8 | 個性豊かな観光と交流の創出 | 好循環P 戦略事業 | 大谷地域の周遊性や滞在性の向上 | ・来訪者 ・大谷公園・大谷景観公園 | 大谷公園及び大谷景観公園の機能向上や魅力向上に向けた再整備を行う | 計画 どおり | 35,646 | H31 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】：大谷公園・大谷景観公園の整備推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画：大谷)を活用し、大谷公園(西側園路エリア)における照明整備及び樹木の伐採・剪定などの修景整備を実施した。また、財源の確保により、当初、令和7年度からの実施を予定していた広場エリアの整備に早期着手することができた。 ・大谷景観公園については、姿川河川改修等の関連事業と同時期の整備となることから、整備時期や整備内容について、関係部署と情報共有や事前調整を実施した。 ・事業の関係者が多岐に渡ることから、県や関係課、地元等との連携・調整を図りながら着実に計画的に事業を進めていく必要がある。 <p>【②今後の取組方針：公園の機能向上や魅力向上に向けた施設の整備推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大谷公園については、広場整備を着実に推進するほか、引き続き財源確保に取り組み、令和9年度の事業完了に向け、計画的に公園整備を推進する。 ・大谷景観公園については、姿川河川改修等の関連事業との調整を行うほか、引き続き財源確保に取り組み、令和9年度の事業完了に向け、計画的に公園整備を推進する。 | |

| NO. | 事業名 | 政策の柱 — 政策 | 施策名 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 事業の目的 | 事業内容 | | 事業の 進捗 | R6 事業費 (千円) | 開始 年度 | 日本一 施策 事業 | 「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」 | 見直し (予定) |
|-----|--------------------------------|-------------------|---|--------------------------------|---|---|--|-----------|-------------------|----------|-----------------|--|-------------|
| | | | | | | 対象者・物 (誰・何に) | 取組(何を) | | | | | | |
| 24 | プロジェクト整備事業(関連含む) | IV-8 VI-13 | 個性豊かな観光と交流の 創出 円滑・快適、安全・安心な 道路づくりの推進 | 戦略事業 ・ SDGs | プロジェクト事業の効 果促進に向けた道路 の整備 | 市民・地権者・道路 利用者 | 道路整備・用地取得 | 計画 どおり | 572,850 | — | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):プロジェクト関連の道路整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮)大谷スマートICについては、地権者の協力により、令和6年6月に下り線の用地の取得が完了したことから、国・県・ネクスコ等と協議調整を進め、令和7年度から下り線の工事に着手する準備を整えた。また、周辺道路の円滑な道路交通確保に必要となる市道2457号線など7路線の事業を推進した。 ・プロジェクト事業に関する道路整備については、交通の円滑化や歩行者の安全確保に向け、適切に工程管理や関係機関との調整を行いながら道路整備を進め、11路線について、計画的に事業を推進した。 ・特に、大谷地域においては、観光地大谷のシンボルとしての効果が期待できる市道632・635号線の環状交差点(ラウンドアバウト)の供用を開始した。 ・(仮)大谷スマートICについては、早期供用に向けて、地域住民の一層の理解と協力のもと、下り線の円滑な工事推進を図っていくとともに、上り線についても早期かつ確実に用地を取得し、工事に着手する必要がある。併せてスマートIC整備による周辺の交通状況の変化を見据え、周辺通学路の安全対策についても、引き続き推進する必要がある。 ・プロジェクト事業の効果を着実に促進させるため、庁内の各事業と連携し、遅延なく計画的に道路事業を進める必要がある。 <p>【②今後の取組方針:プロジェクトの進捗に合わせた幹線道路整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮)大谷スマートICについては、下り線の工事着手という事業の大きな転換期として着工式を開催の上、騒音・振動対策等に十分留意し工事を円滑に進めるほか、説明会やオープンハウスを通じ、地域住民への丁寧な説明を繰り返し行いながら更なる機運醸成を図っていく。また、上り線の用地取得については、下り線の工事着手を契機に、説明会やオープンハウスなど意見交換の場を増やし、事業の必要性や進捗について膝を交えながら丁寧に説明することにより、早期の供用開始の実現に向け確実な用地の取得に努めていく。 ・周辺道路整備については、早期完成を目指すとともに、更なる通学路の安全対策について地域関係者と組織する「安全対策等検討協議会」において協議・検討を進めるなどソフト・ハードの両面から進めていく ・関連するプロジェクトの進捗に合わせ、計画的に事業を推進するため、関係各課と今後のスケジュールや進め方等の調整を図りながら円滑に事業を進めていく。 ・特に大谷地区の観光拠点内で整備を進める市道632・635については、観光シーズンの渋滞緩和や回遊性の向上に向け、関係各課と連携を図りながら、継続的に観音橋北側から立岩街道入口交差点までの道路拡幅及び歩道整備を計画的に進めていく。 | |
| 25 | MICE推進事業 | IV-8 | MICEの推進による魅力と 交流の創出 | SDGs 好循環P 戦略事業 | ・本市へのMICE誘致 促進 ・MICE主催者への支 援強化 | ・MICE主催者 ・市民 ・MICE関係団体、事 業者(市内・市外) ・来訪者 | ・商談会等におけるセー ルス ・国、県、他自治体等との 連携調整 | 計画 どおり | 1,440 | R3 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):国事業の活用と、広域連携コンテンツの造成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘致については、(一社)宇都宮観光コンベンション協会と連携しながら、合同商談会や展示会等に出展するなど、MICE主催者への直接的なセールスも実施したほか、観光庁事業「コンベンションビューロー支援事業」の選定都市として研修を受け、国際会議の誘致ノウハウ等を習得したところであり、今後も協会と連携した積極的なセールス活動を行っていく必要がある。 ・受入れについては、近隣市町の自治体や企業等との連携を主導し、コンベンション協会によるエクスカーションプランやテクニカルビジットコースの造成を支援したところであり、今後は、造成した各種プログラムや具体的なユニークベニューの活用につなげていく必要がある。 <p>【②今後の取組方針:造成したプログラムやユニークベニューの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、商談会等や展示会等への積極的な出展によるプロモーションや、近隣市町と連携したエクスカーションプログラムの造成に取り組むとともに、令和7年度に開催される国際会議において、市内の文化施設をユニークベニューとして活用したレセプションの開催などに取り組んでいく。 | 拡大 |
| 26 | 観光コンベンション協会事業補助金 (MICE関連事業) | IV-8 | MICEの推進による魅力と 交流の創出 | SDGs 好循環P 戦略事業 | ・本市へのMICE誘致 促進 ・MICE主催者への支 援強化 | ・MICE主催者 ・市民 ・MICE関係団体、事 業者(市内・市外) ・来訪者 | ・MICE主催者等に対する セールス ・本市でMICEを開催する 団体等への開催支援 ・主催者等へのファミツ アーの開催 ・MICE関連団体との連携 強化 | 計画 どおり | 86,792 | R3 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):宇都宮観光コンベンション協会を中心とした積極的な誘致活動と開催支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘致については、(一社)宇都宮観光コンベンション協会が主体となり、地元大学や東京圏を中心にセールス活動を行い、多数のMICE主催者へのプロモーションを行うとともに、日光市と連携し、海外を含むMICE主催者やMICEの企画運営事業者等に対する視察ツアーを開催した。今後については、関係性を深めるセールスをより一層強化するとともに、開催都市としての国内外における認知度向上を目指したブランディングやプロモーションの強化が必要である。 ・受入れについては、市内で開催されたMICEに対する補助金の交付や、観光や産業視察情報の提供などの開催支援を行ったほか、コンベンションビューロー支援事業の研修を宇都宮MICEネットワーク委員等の事業者と受講するなど、地域と一体となった受入体制の基盤強化を図った。今後については、これまでに培われてきた連携を生かし、民間事業者が主体となったMICE主催者・参加者への宇都宮ならではの充実などに取り組む必要がある。 <p>【②今後の取組方針:キーパーソンとの関係性の深化と「オール宇都宮」で開催支援する仕組みの構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘致については、これまでに宇都宮市での開催経験のある主催者や、本市に縁のあるキーパーソンとの関係性を深める仕組みづくりに取り組むほか、開催都市としてのブランディングの強化に向けたMICEタグラインやロゴマークの作成に取り組み、経済波及効果の大きい大規模MICEや国際会議の誘致につなげていく。 ・受入れについては、宇都宮MICEネットワーク内に民間事業者主導の分科会を設置し、MICE参加者が街中に周遊・滞在しやすい情報発信の強化などの取組を企画・実施することで、事業者の稼ぐ力を強化していく。 | 拡大 |

| NO. | 事業名 | 政策の柱 — 政策 | 施策名 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 事業の目的 | 事業内容 | | 事業の 進捗 | R6 事業費 (千円) | 開始 年度 | 日本一 施策 事業 | 「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」 | 見直し (予定) |
|-----|----------------------------|-----------------|---------------------------|--------------------------------|---|--|---|-----------|-------------------|----------|-----------------|--|-------------|
| | | | | | | 対象者・物 (誰・何に) | 取組(何を) | | | | | | |
| 27 | 宇都宮駅東口地区における賑わい 空間創出事業 | IV-8 | MICEの推進による魅力と 交流の創出 | SDGs 好循環P 戦略事業 | ・宇都宮駅東口交流 広場におけるにぎわ いの創出 | ・市民 ・来訪者 | ・イルミネーションの点灯 や文字モニュメントの設 置等によるにぎわい創出 ・宮みらい地区連絡協議 会との連携事業の実施 | 計画 どおり | 10,000 | R5 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)：駅東口のにぎわい創出に貢献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの閑散期にあたる12月から2月において、イルミネーションや大型クリスマスツリー、文字モニュメントを設置し、写真撮影の場を創出するなど、広場のにぎわい作りに貢献できた。今後は、事業が継続的に展開できる仕組みづくりを構築する必要がある。 <p>【②今後の取組方針：継続した空間創出に向けた手法の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続したにぎわい空間が創出できるよう、宇都宮駅東口交流拠点施設の指定管理者を中心に、ファミリー向けイベント等の開催や、その入場料の設定、スポンサー収入の確保を図るなど、今後の事業継続に向けたモデル事業の実施を検討する。 | 改善 |
| 28 | 「3x3のまち」推進による都市魅力 向上事業 | IV-8 | スポーツを通じた都市の 魅力向上・地域活性化 | SDGs 好循環P 戦略事業 | FIBA(国際バスケット ボール連盟)が主催す る3人制バスケット ボール「3x3」の国際 大会の開催を通して、 交流人口の増加によ る地域経済の活性化 のほか、「3x3のまち」 としての都市ブランド 力の向上やシビックプ ライドの醸成を図る。 また、多くの市民が3x 3に触れられる機会を 創出し、「3x3のまち 宇都宮」を推進する | ・3x3のまち宇都宮 推進委員会 ・全市民 | ・本市で開催する「FIBA3 x3ワールドツアー」「FIBA 3x3パリ2024オリンピッ ク予選大会」に係る費用 の一部を交付 ・小学生対象の「宇都宮 市長杯」の開催 ・市内小中学校対象の3x 3教室の実施 ・国内トップリーグ「3x3. EXE PREMIER」の誘致開 催 | 計画 どおり | 257,120 | H28 | トップクラ ス | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)：「オープナー」における過去最高の経済波及効果と「オリンピック予選大会」を通じた更なる経済波及効果の獲得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワールドツアーの開幕戦「オープナー」及びパリ2024オリンピック予選大会を誘致開催することができ、「オープナー」では過去最高の8万人が来場し、経済波及効果も過去最大の8億1,690万円に上った。オリンピック予選大会と合わせ、2大会を通じて、15万8千人が来場し、経済効果は20億3,290万円にのぼるなど、これまでにない街なかの賑わいを創出することができた。 ・また、YouTubeでの大会映像の視聴回数についても「オープナー」で過去最高の約1,900万回を記録し、「オリンピック予選大会」と合わせ約4,300万回の視聴回数に上り、「3x3のまち」としての本市の魅力を幅広く発信することができた。 ・令和7年4月の「うつのみやオープナー2025」の開催に向け、FIBAをはじめとする関係団体との調整のほか、幅広い業種の企業から協賛金を獲得し、開催に向けた準備を進めることができたことから、引き続き自主財源の確保に努める必要がある。 ・引き続き、大会開催準備を着実に進め、4回目となる「うつのみやオープナー」を盛大に開催し、開催効果の更なる向上を図るとともに、多くの市民が3x3に触れられる取組を充実し、「3x3のまち宇都宮」の更なる推進を図る必要がある。 <p>【②今後の取組方針：大会開催効果の更なる向上と「3x3のまち宇都宮」の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会主管である「3x3のまち宇都宮推進委員会」と連携しながら、「うつのみやオープナー2025」の開催に当たり、市民をはじめ多くの方々に世界トップのプレーを体感していただくとともに、出場選手と触れ合える多彩な付帯イベント等を展開することで、3x3史上最大の盛り上がり創出し、「3x3のまち宇都宮」を全世界に発信することで、都市ブランド力の向上やシビックプライドの醸成を図る。 ・協賛営業を早期に実施するとともに、ふるさと納税制度を活用した寄附金募集の積極的な周知を行うなど、自主財源の確保に努める。 | |
| 29 | 宇都宮ジャパンカップサイクルー ドレースの開催 | IV-8 | スポーツを通じた都市の 魅力向上・地域活性化 | SDGs 好循環P 戦略事業 | UCI(国際自転車競技 連合)が公認するアジ ア最高位の自転車ワ ンデイロードレースの 開催を通じた都市ブ ランド力の向上や地域 経済の活性化、シビッ クプライドの醸成 | ・NPO法人ジャン カップサイクルード レース協会 ・大会出場選手及び 市民を含む大会来 場者 | ・「宇都宮ジャパンカップ サイクルードレース」の 開催に係る費用の一部交 付 ・安全安心な大会運営に 向けたコース整備等を実 施 | 計画 どおり | 233,609 | H4 | トップクラ ス | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)：過去最高の経済波及効果の獲得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界トップカテゴリーのワールドチームが過去最多タイとなる7チーム参戦し、アジア最高位のワンデイロードレースに相応しい白熱したレースが展開されたことなどにより、3日間で前回大会(令和5年)を上回る134,800人が来場し、経済波及効果は過去最高の35億2,600万円にのぼるなど、本市に大きな賑わいを創出したとともに、「宇都宮」を冠した新たな大会名称を活かしながら、「自転車のまち」としての本市の魅力を全世界に発信することができた。 ・引き続き、市民をはじめ多くの方々から注目を集める大会を開催し、「2025宇都宮ジャパンカップサイクルードレース」と同等以上の開催効果を得る必要がある。 ・また、6,400万円を超える協賛金を獲得するなど、大会開催経費全体に占める自主財源割合を維持できたことから、引き続き、自主財源の確保に努める必要がある。 <p>【②今後の取組方針：世界トップ選手によるハイレベルなレースの実施等による開催効果の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワールドチーム及び世界トップレベルの選手によるハイレベルなレースを実施するほか、幅広い世代が参加して楽しめる多彩な付帯イベントを展開し、これらの取組を全世界に発信することにより、都市ブランド力の向上や地域経済の活性化、国際大会の開催地としてのシビックプライドの醸成を図る。 ・協賛営業を早期に実施するとともに、ふるさと納税制度を活用した寄附金募集の積極的な周知を行うなど、自主財源の確保に努める。 | |

| NO. | 事業名 | 政策の柱 政策 | 施策名 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 事業の目的 | 事業内容 | | 事業の 進捗 | R6 事業費 (千円) | 開始 年度 | 日本一 施策 事業 | 「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」 | 見直し (予定) |
|-----|--|------------|---------------------------|--------------------------------|---|--|---|-----------|-------------------|----------|-----------------|--|-------------|
| | | | | | | 対象者・物 (誰・何に) | 取組(何を) | | | | | | |
| 30 | 宇都宮シクロクロスの開催 | IV-8 | スポーツを通じた都市の 魅力向上・地域活性化 | SDGs 好循環P 戦略事業 | UCI(国際自転車競技連合)が公認するシクロクロスレースの開催を通じた都市ブランド力の向上や交流人口の拡大、サイクルスポーツの振興 | 宇都宮サイクルスポーツ推進委員会 | 「全日本自転車競技選手権大会シクロクロス」の開催に係る費用の一部を交付 | 計画 どおり | 9,500 | H27 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】:日本ナンバーワンを決定する大会開催による都市ブランド力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に引き続き、2年連続で全日本自転車競技選手権大会を開催し、日本ナンバーワンを懸けてしのぎを削るハイレベルなレースが展開されたことなどにより、2日間で前回大会(令和5年)を上回る22,000人が来場し、「自転車のまち宇都宮」のブランド力を高めることができた。 ・令和7年度においては、これまで開催してきたUCI公認の「クラス2」を2日間開催することから、市民をはじめ多くの方々に国内最高峰のレースである本大会を幅広く発信し、全日本選手権と同等以上の開催効果を得る必要がある。 ・また、570万円を超える協賛金を獲得するなど、大会開催経費全体に占める自主財源割合を維持できたことから、引き続き、自主財源の確保に努める必要がある。 <p>【②今後の取組方針:国内最高峰のシクロクロスレースの実施等による開催効果の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内最高峰の選手達によるハイレベルなレースを実施するほか、幅広い世代を対象とした様々なサイクルスポーツイベントを展開し、これらの取組を幅広く発信することにより、都市ブランド力の向上や地域経済の活性化、国内最高峰のシクロクロス大会の開催地としてのシビックプライドの醸成を図る。 ・協賛営業を早期に実施するとともに、ふるさと納税制度を活用した寄附金募集の積極的な周知を行うなど、自主財源の確保に努める。 | |
| 31 | アーバンスポーツ(スケートボード・BMX)の新たなスポーツ資源としての発掘・創出 | IV-8 | スポーツを通じた都市の 魅力向上・地域活性化 | SDGs 好循環P 戦略事業 | スケートボード・BMXをはじめとしたアーバンスポーツの新たなスポーツ資源の発掘・創出による都市ブランド力の向上や交流人口の拡大、シビックプライドの醸成 | 全市民 | <ul style="list-style-type: none"> ・宮みらいライトヒル・ライトキューブ宇都宮等におけるアーバンスポーツフェスティバルの開催 ・東部総合公園における国際大会の誘致・開催に向けた関係機関・団体との関係構築 | 計画 どおり | 10,200 | R6 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】:東部総合公園の開園に向けた機運醸成や国際大会の誘致・開催に向けた関係機関・団体等との連携強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケートボード・BMXの国内トッププロ選手によるデモンストレーションや初心者体験会などを盛り込んだアーバンスポーツフェスティバルを開催し、東部総合公園の開園に向けた機運醸成や市民のスケートボード・BMXへの興味関心を高め、新たなスポーツ資源としてのスケートボード・BMXの推進を図ることができた。 ・令和8年度以降のスケートボード等の国際大会の誘致・開催に向け、大会の開催権者等との関係構築を図ることができた。 ・引き続き、東部総合公園の開園に向けた機運醸成を図るため、スケートボード・BMXをはじめとしたアーバンスポーツの「みる」「する」取組を強化するとともに、国際大会の誘致・開催に向け、関係機関・団体との連携強化を図り、新たなスポーツ資源としてのスケートボード・BMXの推進を図る必要がある。 <p>【②今後の取組方針:「みる」「する」取組の強化によるアーバンスポーツの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部総合公園の開園に向けた機運醸成が図れるよう、国際大会の誘致・開催の実現を図るとともに、スケートボード・BMXの普及促進に向けた初心者体験会等を実施するなど、新たなスポーツ資源としてのスケートボード・BMXの推進に取り組む。 | |
| 32 | プロスポーツチームとの連携・支援 | IV-8 | スポーツを通じた都市の 魅力向上・地域活性化 | SDGs 好循環P 戦略事業 | 本市をホームタウンとするプロスポーツチームとまちづくりのパートナーとして緊密に連携することによる、経済・地域の活性化や都市ブランド力の向上、シビックプライドの醸成 | <ul style="list-style-type: none"> ・本市をホームタウンとするプロスポーツチーム ・全市民 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の盛り上がりの創出に向けた連携(ファン層拡大に向けた広報活動など) ・地域密着型チームの確立に向けた連携(市民がプロスポーツチームに触れられる機会の拡大など) ・プロスポーツチームと連携した誘客促進(アウェイツーリズムなど) ・プロスポーツチームの活動拠点の整備に対する連携・支援(宇都宮プレックスの新アリーナ等整備など) | 計画 どおり | 11,100 | H18 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】:まちづくりのパートナーであるプロスポーツチームとの連携・支援の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市有施設へのポスター掲出や市広報紙等、市の広報ツールを活用した試合情報等の発信など、プロスポーツチームのファン層拡大に向けた広報活動を実施したほか、プロスポーツチームのホームゲームにおける「宇都宮愉快デー」の開催や、ホームゲームの大型ビジョン等を活用した本市の魅力発信により、アウェイツーリズムの推進につなげることができた。 ・令和8年度に本市に活動拠点を移転する、プロラグビーチーム「ホンダヒート」と、スポーツ振興や健康増進、経済・地域の活性化などを内容とする包括連携協定の締結について合意することができた。 ・宇都宮プレックスが進める新アリーナ整備に係る定期的な意見交換を行い、アリーナ整備の進捗状況を確認し、適宜必要な支援・助言を行った。また、Bプレミアの参入審査に向けた本市の対応について整理し、市体育館の改修により参入審査基準を充足し、宇都宮プレックスのBプレミアの参入が決定した。 ・引き続き、プロスポーツチームがもたらす効果を高められるよう、プロスポーツチームとの連携事業を推進し、経済・地域の活性化や都市ブランドの向上、シビックプライドの醸成に繋げていく必要がある。 <p>【②今後の取組方針:プロスポーツチームがもたらす効果の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済効果や青少年の健全育成、シビックプライドの醸成など、プロスポーツチームが本市にもたらす効果を高められるよう、各プロスポーツチームとの包括連携協定に基づく取組を推進する。 ・また、宇都宮プレックスが進める新アリーナ整備の進捗に合わせた支援策を検討するなど、プロスポーツチームの活動拠点の整備に対する連携・支援に取り組む。 | |

| NO. | 事業名 | 政策の柱 — 政策 | 施策名 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 事業の目的 | 事業内容 | | 事業の 進捗 | R6 事業費 (千円) | 開始 年度 | 日本一 施策 事業 | 「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」 | 見直し (予定) |
|-----|----------------|------------------------|--|--------------------------------|--|---------------------------|---|-----------|-------------------|----------------------------|-----------------|---|-------------|
| | | | | | | 対象者・物 (誰・何に) | 取組(何を) | | | | | | |
| 33 | 自転車のまちづくり推進事業 | IV-8 III-6 VI-13 | スポーツを通じた都市の 魅力向上・地域活性化 日常生活の安心感の向上 「自転車のまち宇都宮」の 推進 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 自転車の利用・活用 の促進 | 自転車利用者 | ・駐輪環境整備 ・自転車マップの作成 | 計画 どおり | 88 | H15 | 独自性 | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)：自転車利用の促進に関わる利用環境の更なる充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車と公共交通の利用促進を図るため、ライトライン駐輪場の利用率の高い駐輪場について、限られた空間での配置の工夫による増設整備をするとともに、バス停留所付近の駐輪場については、地域の拠点となる地区市民センターに計画的に整備した。 ・自転車マップについては、市内版を最新情報に更新し、広域版とともに宮サイクルステーションや観光案内所等で配布することにより、サイクルツーリズムの推進を図った。 ・駐輪場については、引き続きニーズに応じて利便性の向上に向けて整備を進めるとともに、利用促進に向けた効果的な周知に努める必要がある。 ・自転車マップについては、自転車利用者の更なる利便性向上を図るとともに、利用促進に向けた周知に努める必要がある。 <p>【②今後の取組方針：官民連携による計画的な事業の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通と自転車の相互の更なる利用促進を図るため、ライトライン駐輪場については、引き続き利用状況を定期的確認し、必要台数を増設するとともに、隣接駐輪場への誘導も適切に行いながら、利用環境の向上を図る。バス停留所付近の駐輪場については、運行本数の多い路線や乗客数の多いバス停を中心に駐輪場を拡充し、利用者の更なる利便性向上を図るほか、広報紙やHP等を通じて周知に取り組んでいく。 ・サイクルツーリズムの更なる推進に向け、自転車マップの内容の充実を図るとともに、広報紙やHP等を通じた効果的な周知啓発を行っていく。 ・自転車の利用・活用の促進を図るため、「第2次宇都宮市自転車のまち推進計画」の中間見直しの中で、自転車利用による健康増進など自転車有する多様な価値を活用した取り組みを更に充実させる。 | |
| 34 | スポーツツーリズム推進事業 | IV-8 VI-13 | スポーツを通じた都市の 魅力向上・地域活性化 「自転車のまち宇都宮」の 推進 | SDGs 好循環P 戦略事業 | 本市独自のスポーツ ツーリズムの展開による 年間を通じた賑わいの 創出 | ・本市を訪れるサイ クリスト ・全市民 | ・宇都宮ブリッツェンとの 連携による宇都宮ジャ パンカップサイクルロード レースを活用したサイク ルツーリズムイベントの試 行実施 ・「自転車の駅」の管理運 営 | 計画 どおり | 1,667 | R4 ※「自転 車の駅」 はH15 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)：サイクルツーリズムイベントの更なる事業拡大の可能性の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮ブリッツェン選手との交流や、宇都宮ジャパンカップロードレースコースを走行するサイクルツーリズムイベントの実施により、多くの参加者からイベントに対する高い評価をいただき、更なる事業拡大の可能性を確認できたことから、令和7年度においては、地域経済の活性化に向けて、より多くの方々に参加してもらえるイベントを企画・実施する必要がある。 ・「自転車の駅」について、公共施設や店舗の協力のもと設置数を拡大したことに加え、認知度向上に向けて、宇都宮ジャパンカップサイクルロードレースの公式ホームページ等を活用した情報発信を行った。引き続き、認知度向上による更なる利用促進に向けて、様々な媒体を活用したPRを行う必要がある。 <p>【②今後の取組方針：サイクルツーリズムイベントの充実による地域経済の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、宇都宮ブリッツェンと連携を密にししながら、初心者をはじめとする幅広い層が気軽に参加でき、快適かつ安全にサイクリングしながら、本市の魅力を楽しめるイベントを企画・実施する。 ・「自転車の駅」について、本市が定めるサイクリングルートやサイクリングロード沿線等の施設や店舗を中心に設置数の拡大を図るとともに、宇都宮ジャパンカップサイクルロードレースの公式ホームページなど発信力のある媒体を活用し、積極的な情報発信を行う。 | |
| 35 | 市民芸術祭共催事業負担金 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継 承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | 市民の芸術文化活動 の発表・鑑賞機会を創 出する。 | 宇都宮市民芸術祭 実行委員会 | 宇都宮市民芸術祭の開 催 | 計画 どおり | 7,698 | S55 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)：より多くの市民への参加の呼びかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部門において参加者の高齢化が進んでいるものの、運営委員や審査員などの呼びかけにより、専門学校や芸術大学の学生など若年層の出品が増えるなど、幅広い世代の参加を募ることができた。 ・ギャラリー部門の優秀作品を南図書館のギャラリーに展示し、多くの市民に作品に触れる機会を創出した。 ・11月に第2回実行委員会を開催し、次年度の開催に向けて、内容の充実や若年層の参加などの課題を共有した。 <p>【②今後の取組方針：若年層をはじめとする、より多くの市民の参加促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、各部門において創意工夫を図り、若い世代をはじめ、より多くの市民の参加促進に努めるほか、運営側にも若い人材の取り込みを図る。 | |
| 36 | ジュニア芸術祭共催事業負担金 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継 承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | 小中高校生の芸術文 化活動の発表・鑑賞 機会を創出する。 | うつのみやジュニア 芸術祭実行委員会 | うつのみやジュニア芸術 祭の開催 | 計画 どおり | 4,816 | H11 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)：小中学校と連携した事業実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全部門とも例年同様の開催をすることができたが、出品数や参加者数、観覧者数は、少子化による学生数の減少も影響しているのか、コロナ禍以前の水準に戻っていないことから、引き続き、より多くの市民の認知度向上を図るとともに、小・中学校と連携し、出品数や参加者数の増加に努める必要がある。 <p>【②今後の取組方針：参加者や出品数、参加団体の増加など、事業の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民に子どもたちの活動や、成長を一層感じてもらえる機会を創出するため、ジュニア芸術祭の認知度向上に向けた取組の検討、また受賞作品の情報発信などに努めていく。 | |

| NO. | 事業名 | 政策の柱 — 政策 | 施策名 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 事業の目的 | 事業内容 | | 事業の 進捗 | R6 事業費 (千円) | 開始 年度 | 日本一 施策 事業 | 「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」 | 見直し (予定) |
|-----|----------------|-----------------|-----------------------|--------------------------------|--|-------------------------|--|-----------|-------------------|----------|-----------------|--|-------------|
| | | | | | | 対象者・物 (誰・何に) | 取組(何を) | | | | | | |
| 37 | 文化協会事業補助金 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | 市民主体による芸術文化の普及・振興を図る。 | 宇都宮市文化協会 | ふれあい文化教室・文化探訪等の実施 | 計画どおり | 1,380 | S54 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):様々な文化の体験機会の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化協会まつりやこどもマジック教室、歌舞伎観劇会などを開催し、多くの市民が文化芸術に触れる機会の創出に取り組んだ。 文化協会会員が講師となり小中学校において実施する「ふれあい文化教室」については、箏・尺八や民謡、三味線、茶道などの伝統文化をはじめ、ジャズや百人一首等の本市ならではの文化に触れる機会を提供しており、子どもたちの豊かな感性や人間力の育成のほか、郷土に対する誇りや愛着の醸成に大きく寄与している。 <p>【②今後の取組方針:市民主体による文化活動の促進への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宇都宮市文化協会は各ジャンルで活躍している市内芸術家を統括した団体であることから、引き続き、市民主体の文化活動への支援を行うとともに、各公募事業の参加者数の増加に努める。 | |
| 38 | 宇都宮エスペール文化振興事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | 次代を担う芸術家の育成・支援を図り、本市の文化振興に寄与する。 | 今後の活躍が期待できる本市ゆかりの優れた芸術家 | <ul style="list-style-type: none"> 隔年で宇都宮エスペール賞の選考、受賞者に育成金(200万円)を贈呈 エスペール賞の選考を行わない年は、プロポート事業(受賞者の発表機会提供事業・受賞者学校派遣事業)を実施 | 計画どおり | 2,998 | H13 | 独自性 | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):本市の文化振興に寄与する次代を担う芸術家の選考】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元の若手芸術家を育成・支援する取組は全国的にも稀有であり、令和6年度は、ギャラリー部門の選考年として、7月から募集し21名の応募があった。第1次、第2次選考委員会を開催し、書類審査や面接、作品検分などを基に厳正な審査を行い、選考委員会の推薦に基づき市が受賞者を決定し授与した。今後は、受賞者のより一層の活躍を支援し、市民がより質の高い文化芸術に触れる機会を創出し、本市文化振興に向けて取り組む。 <p>【②今後の取組方針:エスペール賞受賞者による市民が質の高い文化芸術に触れる機会の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度は、プロポート事業の実施の年次であることから、コンサートやギャラリー展、学校への派遣事業など、受賞者の発表機会の創出に努める。 また実施にあたっては新たな鑑賞の場や機会の創出を図るため新たな会場での開催を検討する。 | |
| 39 | 文化創造財団運営補助金 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | | 市民文化の創造を図り本市の文化振興に寄与するため設立した文化創造財団の円滑な組織運営を支援する。 | (公財)うつのみや文化創造財団 | 財団の組織運営に要する経費の一部補助 | 計画どおり | 71,104 | H14 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):財団の健全な運営に向けた支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民文化の向上を担う中核組織として健全な運営を行うために、財政的な支援だけでなく、人材育成につながる職員の研修機会の提供などを行った。 また、本市2施設の指定管理者として、組織体制に係る助言などを行うとともに、各館の専門性を活かした特色ある事業の実施を促した。 物価高騰の影響が続いていることから、効率的で適正な財務運営に努めていく必要がある。 <p>【②今後の取組方針:本市の文化振興の中核組織としての機能強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民文化の振興を担う中核組織として、官民を跨いだ情報集約や発信機能、市民の文化活動を支える支援機能などが発揮できるよう、引き続き、研修機会の提供や助言を行うなど円滑な組織運営を支援していく。 これまで培ってきた学芸・舞台・音響・照明等の専門知識やスキルを生かした教育普及、地域や市民団体が行う文化芸術の活動支援に積極的に取り組むことができるよう、組織体制維持のために必要な支援を行う。 また、美術館及び文化会館の適正な運営が担保されるよう、指定管理者団体として適正なガバナンスの確保に向けた支援を行う。 | |
| 40 | 文化会館管理運営事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | | 文化会館の円滑かつ適切な管理運営と効果的な事業実施により本市の文化振興を図る。 | (公財)うつのみや文化創造財団 | 指定管理者を運営主体とした文化会館の管理運営と文化振興事業の実施 | 計画どおり | 320,531 | S54 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):各種ホール事業の開催、施設利用の安全確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の適正な維持管理を行い利用者の安全確保に努めるとともに、ホールでの各種事業を開催し、市民が文化芸術活動に触れる機会の創出に取り組んだ。 <p>【②今後の取組方針:施設利用の安全確保と文化団体等との連携及び情報発信力の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設利用の安全確保に向けた適正な管理運営を行うことはもとより、施設の貸し出しを通して地域や団体が行う文化芸術活動を支援するとともに、共催で事業を行うなど、より多くの市民の文化活動の活性化に繋がる取組を推進する。 また、本市文化の活動拠点として、市民が様々な文化にかかわる情報に触れることができるよう、情報の収集・発信力の向上に向けた支援を行う。 友好都市「沖縄県うるま市」の中高生による舞台『肝高の阿麻和利』を活用した文化交流を進めていくために、受託事業である演劇ワークショップなどにおいて、オンライン交流の実施などを検討する。 | |
| 41 | 文化会館整備事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | | 利用者に安全で快適な施設サービスを提供する。 | 宇都宮市文化会館利用者 | 文化会館の施設・設備の計画保全や緊急対応 | 計画どおり | 309,800 | S54 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):計画的な保全整備による安全かつ快適な施設環境の維持と再整備に向けた検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> 開館から40年以上が経過していることから、施設・設備の劣化等に伴う設備の更新・保全整備に取り組んだ。大規模改修は、見送ったことから、図書館等、文化ゾーン内施設の複合化など視野に入れ、関係各課と連携し、再整備に向けた検討を開始した。 <p>【②今後の取組方針:再整備に向けた必要機能・規模の検討、計画的な施設維持・修繕】</p> <ul style="list-style-type: none"> 再整備に向け、文化ゾーン内施設の管理課等庁内関係各課と連携しながら、市域及び県域における当該施設の役割などについて検討を進めるとともに、再整備のスケジュールを鑑みながら、施設の機能維持に係る改修・設備更新等を計画的に行う。 | |

| NO. | 事業名 | 政策の柱 — 政策 | 施策名 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 事業の目的 | 事業内容 | | 事業の 進捗 | R6 事業費 (千円) | 開始 年度 | 日本一 施策 事業 | 「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」 | 見直し (予定) |
|-----|----------------|-----------------|-----------------------|--------------------------------|--|----------------------------------|------------------------------------|-----------|-------------------|----------|-----------------|--|-------------|
| | | | | | | 対象者・物 (誰・何に) | 取組(何を) | | | | | | |
| 42 | 美術館管理運営事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | | 美術館及び文化の森の円滑かつ適切な管理運営と効果的な事業実施により本市の文化振興を図る。 | (公財)うつのみや文化創造財団 | 指定管理者を運営主体とした美術館の管理運営と企画展などの事業の実施 | 計画どおり | 452,462 | H9 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):魅力ある企画展の開催と施設利用の安全確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4回の企画展を開催し、特に、第6回宇都宮美術の現在展では市民に本市ゆかりの芸術家の活動に触れていただく機会を創出した。また、「コスチュームジュエリー展」においては、東武友の会と連携した広報活動を展開し、主に女性を中心に好評を得ることができ、文化芸術の振興を図ることが出来た。 <p>【②今後の取組方針:魅力ある企画展の継続開催と学芸員の専門スキルの向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸員の幅広い専門知識やスキルをさらに生かし、これまで収集した6,900点を超えるコレクションや、大谷石や宮染めなど本市の資源を活かした館外プロジェクトの企画、自然豊かな文化の森に立地する特色を生かした事業の企画に取り組む。 ・文化の森のベンチや歩道の老朽化や、ナラ枯れとみられる樹木が多数あることから、来園者が安全に利用できるような適正な管理を検討する。 | |
| 43 | 美術館整備事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | | 利用者に安全で快適な施設サービスを提供するとともに、美術品の適切な保護を図る。 | 宇都宮美術館 | 美術館の施設・設備の計画的保全や緊急対応 | 計画どおり | 27,848 | H9 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):計画的な保全整備のための改修工事の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化の森公園電灯設備改修工事や空冷チャラー修繕工事などを実施し、利用者の利便性の向上や安全性の向上を図る整備を実施した。 <p>【②今後の取組方針:計画的な保全整備のための美術館施設設備の改修・修繕と文化の森の適切な管理の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3~4年に設備の大規模改修を終えたところであるが、大規模改修工事の対象外であった設備についても、耐用年数を考慮し優先順位を付け、適切な維持・保全管理に取り組む。 | |
| 44 | 美術館訪問鑑賞会事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | 子どもたちが質の高い芸術に親しむ機会を提供する。 | 市内小中学生 | 市有バス等を活用して美術館を訪問し、展覧会の鑑賞等を行う。 | 計画どおり | 275 | H30 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):子どもたちが優れたアートに触れる機会の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加した3校の児童生徒や教職員の満足度も高く、子どもたちの豊かな感性や人間力の育成に寄与した。 <p>【②今後の取組方針:参加しやすく魅力的な事業内容の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの子どもたちに優れたアートに触れる機会を提供するため、参加校の利便性向上に努めていく。また、翌年度以降の募集に向けて、参加しやすく魅力的な事業になるよう内容を検討するなど、新規の学校の参加促進を図っていく。 | |
| 45 | 指定文化財管理費補助金 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | | 所有者と連携し貴重な指定文化財等の保存を図る。 | 市内の指定文化財等の所有者 | 指定文化財等の維持管理に要する経費の一部を補助 | 計画どおり | 97 | S31 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):計画的な維持管理による安全かつ良好な文化財の保存】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財の防災や維持管理に必要な費用を支援することにより、国指定文化財として価値を保持し保存を図った。 <p>【②今後の取組方針:貴重な文化財の保存・継承の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴重な文化財を将来にわたり良好な状態で引き継いでいくため、今後とも所有者や管理者と連携しながら、文化財の適切な維持管理の取組を支援していく。 | |
| 46 | 指定文化財等保存修理費補助金 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | | 所有者と連携し貴重な指定文化財等の保存や活用を図る。 | 市内の指定文化財等の所有者・愛護活動団体 | 指定文化財等の修理に要する経費の一部を補助 | 計画どおり | 3,432 | S31 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):計画的な維持管理による安全かつ良好な文化財の保存】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財の修繕事業について、所有者や国・県などと協議を行い、計画的に保存修理を行った。 <p>【②今後の取組方針:貴重な文化財の保存・継承の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴重な文化財を将来にわたり良好な状態で引き継いでいくため、今後とも所有者や管理者と連携しながら、文化財の適切な維持管理の取組を支援していく。 | |
| 47 | 指定文化財保存活動費補助金 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | | 市民協働により貴重な指定文化財等の保存や活用、継承を図る。 | 市内の指定文化財等の保存・愛護活動団体 | 指定文化財の維持管理活動や伝承活動等に要する経費の一部を補助 | 計画どおり | 1,261 | S32 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):市民主体による文化財の保存・継承の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存・愛護団体における文化財周辺の清掃・除草作業、獅子舞の練習や祭りへの参加などの活動に要する費用の一部を補助することで、文化財の保存や継承の取組を支援したが、文化財保存・愛護団体は、高齢化や会員数の減少により活動が停滞傾向にある。 <p>【②今後の取組方針:市民による文化財保存活用の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後継者不足等の問題により活動が停滞している団体に対し、地域ぐるみでの活動の促進を助言するなど、適切な対応・支援を行っていく。 | |
| 48 | 文化財ボランティア支援事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | | 市民協働により貴重な文化財の周知啓発を図る。 | ・宇都宮市文化財ボランティア協議会 ・市民 ・来訪者 | 文化財ボランティア養成講座の開催、城址公園等における案内活動等の実施 | 計画どおり | 59 | H20 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):市民ボランティアガイドによる市内歴史文化資源の周知啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて宇都宮城址公園を中心に市内中心部の歴史文化資源を周知啓発するほか、文化財めぐりや「フェスタmy宇都宮」など城址公園で開催されるイベントにおいて市とボランティア協議会が連携し事業を行った。 <p>【②今後の取組方針:団体の円滑な活動に向けた支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客の増加に対応した団体活動の進め方などについて、宇都宮市文化財ボランティア協議会と意見交換を重ね、ボランティアガイド活動などがスムーズに運営できるよう支援していく。 | |

| NO. | 事業名 | 政策の柱 — 政策 | 施策名 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 事業の目的 | 事業内容 | | 事業の 進捗 | R6 事業費 (千円) | 開始 年度 | 日本一 施策 事業 | 「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」 | 見直し (予定) |
|-----|-----------------------|-----------------|-----------------------|--------------------------------|---|--|---|-----------|-------------------|----------|-----------------|--|-------------|
| | | | | | | 対象者・物 (誰・何に) | 取組(何を) | | | | | | |
| 49 | 文化財周知啓発事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | 本市の歴史文化や文化財に対する理解促進や認知度向上を図る。 | ・市民 ・来訪者 | 文化財めぐり・普及啓発資料の作成等の実施 | 計画 どおり | 564 | H3 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】各種事業の実施を通じた歴史文化に対する意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財めぐりについては、テーマに応じた文化財に触れる機会の創出に努めた。 ・市立小学校6年生の社会科授業で活用できる「宇都宮空襲パンフレット」を作成・配布し、子どもたちや保護者に戦争の悲惨さや平和の大切さを理解してもらうことができた。 ・メールマガジンやInstagramでの情報発信を毎週行うことで、市内の様々な文化財や文化財展示施設でのイベントなどについて効果的な情報発信をすることができた。 <p>【②今後の取組方針】多様なツールを使った普及啓発の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮の歴史や伝統文化の理解促進や認知度向上のため、文化財めぐりや「歴史と文化財ホームページ」、「宇都宮学」などの多様なツールを用いた普及啓発に引き続き取り組んでいく。 | |
| 50 | 宇都宮伝統(ふるさと)文化継承事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | 市民協働により本市に伝わる伝統文化・芸能・食等の保存と継承を図る。 | 宇都宮伝統文化連絡協議会 | 伝統文化フェスティバル・宮っ子伝統文化体験教室・伝統文化講座・ふるさと料理講座等の実施 | 計画 どおり | 3,471 | H20 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】伝統文化に触れる機会の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化連絡協議会会員が講師となり小中学校において獅子舞等の伝統芸能や黄ぶな絵付け等の伝統工芸、地域に伝わる民話語り等の体験機会を提供している「宮っ子伝統文化体験教室」は、市内30校を対象に実施することができた。 ・伝統文化フェスティバル(10月)はるまんちつく村を会場に開催し、伝統文化を継承する団体や小学校の発表の機会を設け、伝統文化の継承に努めた。 <p>【②今後の取組方針】市民主体による伝統文化の継承活動への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、「伝統文化フェスティバル」や各種講座、「宮っ子伝統文化体験教室」を実施することで、伝統文化に身近に触れる機会を創出するとともに、地域における継承活動の環境づくりや人材育成への支援を図っていく。 | |
| 51 | 文化遺産を活用した地域活性化事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化基本構想に基づき、本市の歴史文化資源に対する理解促進と認知度向上を図る。 ・地域ぐるみでの歴史文化資源の保存活用を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市歴史文化資源活用推進協議会 ・指定・未指定の歴史文化資源 | <ul style="list-style-type: none"> ・本市の歴史文化を紐解くエイト・ストーリーの普及啓発の実施 ・「宇都宮市民遺産制度」の普及啓発及び認定団体への活動、補助金活用等の指導・助言 | 計画 どおり | 7,539 | H28 | 独自性 | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】本市の歴史文化資源の普及啓発及び保存・活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「宇都宮城映像コンテンツ」の運用のほか、宇都宮城址公園内にのぼり旗を設置し、周知啓発を行った。 ・「宇都宮市民遺産制度」については、新たに2件を認定するなど、文化遺産を活用した地域の活性化を着実に推進した。 ・市民とともに地域の文化財の保存・活用を計画的、継続的に取り組むため、宇都宮市歴史文化基本構想のアクションプランとなる「宇都宮市文化財保存活用地域計画」について、広く意見を聴取しながら計画策定にむけて取り組み、12月20日に文化庁より認定された。 <p>【②今後の取組方針】本市の歴史文化資源の普及啓発及び保存・活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歴史と文化財ホームページ」やSNSなどの視覚的な情報ツールを用いてエイト・ストーリーの更なる普及啓発を進めるとともに、宇都宮城映像コンテンツを活用して宇都宮城の情報発信を推進する。また、「宇都宮市民遺産制度」について、引き続き制度の周知を図り、市民や地域団体の関心を高めるとともに既認定団体への支援に努めていく。 ・文化資源を保存・継承するとともに文化財に一元的に親しむ環境を作るため、文化財等をデジタルアーカイブ化し、「デジタルミュージアム」を構築する。 ・文化財保存活用地域計画に基づき、根古谷台遺跡の保存活用計画を策定する。 | |
| 52 | 日本遺産を通じた大谷石文化の保存・活用事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・「日本遺産 大谷石文化」の理解促進と認知度向上、保存活用を図る。 ・「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」の持続的な保存・活用を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市大谷石文化推進協議会 ・人々の生活や生業などにより作られた大谷地域の文化的な景観 | <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究・情報発信・普及啓発・人材育成に係る事業の実施 ・国の重要文化的景観への選定と普及啓発に係る事業の実施 | 計画 どおり | 6,048 | H30 | 独自性 先駆的 | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】宇都宮市大谷石文化推進協議会を核とした魅力発信事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産認定から6年が経過し、文化庁による総括評価・継続審査が実施され、「認定継続」の結果となった。 ・官民連携で設立した「宇都宮市大谷石文化推進協議会」を核として、大谷石文化の保存や活用に向け、情報発信・普及啓発・人材育成に係る様々な事業を実施した。 ・大谷石文化学講座では講話に加え講師による大谷石彫刻の実演や参加者による体験会を実施し、「より関心が高まった」等、参加者から好評を得ることが出来た。 ・10月11日に「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が国の重要文化的景観に選定され、横断幕や広報紙・ホームページを活用した情報発信、ならびに選定記念講演会、上河内民俗資料館や市役所市民ホールでのパネル展の開催など、市民の理解促進と普及啓発に向けた取り組みを実施した。 <p>【②今後の取組方針】大谷石文化に係る市民理解の促進と認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な機会や媒体を通じて大谷石文化の価値や魅力の情報発信や普及啓発の充実を図り、地域の活性化につなげるほか、官民連携により大谷石文化を保存活用する取組を推進するとともに、協議会が持続的に活動できる組織体制づくりに取り組んでいく。 ・また、大谷地域の重要文化的景観の周知啓発のための案内板の整備やパンフレットの作成を行う。 ・文化的景観の整備活用計画の策定に向け、懇談会を設置し、客観的な意見を聴取しながら検討していく。 | |

| NO. | 事業名 | 政策の柱 — 政策 | 施策名 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 事業の目的 | 事業内容 | | 事業の 進捗 | R6 事業費 (千円) | 開始 年度 | 日本一 施策 事業 | 「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」 | 見直し (予定) |
|-----|-------------------|-----------------|-----------------------|--------------------------------|---|----------------------------|--|-----------|-------------------|----------|-----------------|--|-------------|
| | | | | | | 対象者・物 (誰・何に) | 取組(何を) | | | | | | |
| 53 | 文化財調査事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | ・文化財保護法に基づき、開発行為に伴う埋蔵文化財の適切な保護を図る。 ・市民協働により指定文化財の適切な保護を図る。 | ・市内の埋蔵文化財包蔵地 ・市内の指定文化財等 | ・埋蔵文化財包蔵地における開発行為に伴う発掘調査等の実施 ・宇都宮市文化財調査員活動の実施 | 計画 どおり | 2,291 | S42 | | 【①昨年度の評価(成果や課題):埋蔵文化財及び指定文化財の適切な保護】 ・開発業者から届出のあった埋蔵文化財包蔵地における開発行為に対し、文化財保護法に基づき、県と連携し、指導・助言を行った。 ・届出を行わず開発行為等を行う事業が年数件発生していることから、開発に関わる庁内関係課と連携し、文化財保護法に基づく適正な開発行為について周知啓発を図る必要がある。 【②今後の取組方針:民間事業者の法令遵守意識の高揚による埋蔵文化財の適切な保護の推進】 ・文化財保護法に基づく開発行為についてホームページで情報発信するほか、庁内他課の開発許認可窓口で周知文書を備え付けるなど、民間事業者に対して周知啓発を図る。 | |
| 54 | とびやま歴史体験館活用・啓発事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | 本市の歴史文化に対する理解促進を図る。 | ・市民 ・来訪者 | 企画展・講演会の開催 | 計画 どおり | 170 | H17 | | 【①昨年度の評価(成果や課題):本市の歴史文化に関する普及啓発の推進】 ・様々なテーマによる企画展や講演会を開催し、本市の歴史文化に対する理解促進に努めた。 【②今後の取組方針:とびやま歴史体験館の効果的な活用に向けた検討】 ・ライトライン「飛山城跡停留場」からのアクセス向上や、とびやま歴史体験館のより効果的な活用等を通じて、誘客促進について検討を進めていく。 | |
| 55 | 飛山城跡整備事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | 飛山城跡の適切な保存と活用を図る。 | 飛山城跡(国指定史跡) | 施設・設備の整備・維持管理 | 計画 どおり | 50,650 | S52 | | 【①昨年度の評価(成果や課題):飛山城跡の効果的な活用に向けた検討】 ・飛山城史跡公園の大手木橋について、架替工事を行った。 ・西側傾斜地の竹林を伐採し、眺望を確保することで、利用者満足度向上を図った。 【②今後の取組方針:飛山城跡の効果的な活用に向けた検討】 ・老朽化した空調工事を実施する。 ・劣化した施設、設備の現状を把握し、計画的に修繕する。 | |
| 56 | うつのみや遺跡の広場改修事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | | うつのみや遺跡の広場の適切な保存と活用を図る。 | 根古谷台遺跡(国指定史跡) | 施設・設備の整備・維持管理 | 計画 どおり | 25,241 | S62 | | 【①昨年度の評価(成果や課題):うつのみや遺跡の広場の効果的な活用に向けた検討】 ・老朽化により茅葺屋根の一部が崩落していた復元建物(J-20)について、屋根の部分修繕を実施した。 ・うつのみや遺跡の広場屋外トイレについて、上下水道への接続と便器の洋式化工事を実施した。 ・平成3年3月の開園から30年以上が経過しており、復元建物を含め施設の老朽化が進んでいることから計画的な修繕が必要である。 【②今後の取組方針:うつのみや遺跡の広場の効果的な活用に向けた検討】 ・引き続き、施設の老朽化に適切に対応するとともに、デジタルの活用も含め今後の展示施設のあり方について、外部有識者の意見を参考に検討し、保存活用計画としてまとめる。 | |
| 57 | 上神主・茂原官衙遺跡保存整備事務費 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | | 上三川町と連携し上神主・茂原官衙遺跡の適切な保存と活用を図る。 | 上神主・茂原官衙遺跡(国指定史跡) | 普及啓発事業の実施、保存のあり方の検討 | 計画 どおり | 645 | H20 | | 【①昨年度の評価(成果や課題):普及啓発の推進及び整備のあり方の検討】 ・史跡に関する講座の開催や本庁舎市民ホールでの出土品や遺跡に関するパネル展など、普及啓発に取り組んだ。 ・「上神主・茂原官衙遺跡出土刻書瓦」が国の重要文化財の告示を受けたことにより、上三川町と共同で指定記念シンポジウムを開催し周知啓発を行った。 【②今後の取組方針:普及啓発の推進及び整備のあり方の検討】 ・上三川町と連携しながら保存整備委員会において、今後の活用方策や整備のあり方等について引き続き検討を行う。 ・重要文化財として答申を受けた刻書瓦について、市内外での展示を行ったり、保存修復を行ったりするなど、保存修復事業及び普及啓発事業を実施し、遺跡の認知度の向上と保存に向けた機運醸成を図っていく。 | |
| 58 | 史跡等整備事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | 市内の有形文化財や史跡、天然記念物等の適切な保存と活用を図る。 | 市内の有形文化財や史跡、天然記念物等 | 施設・設備の整備・維持管理 | 計画 どおり | 11,900 | H20 | | 【①昨年度の評価(成果や課題):貴重な建造物等の保存・継承に向けた工事等の実施】 ・重要文化財である旧篠原家住宅主屋の令和7年度の耐震対策工事に向けて国庫補助申請を行った。 ・指定文化財に係る表示板等の設置工事を行い、文化財の効果的な活用に資するよう整備を行った。 【②今後の取組方針:貴重な史跡等の保存・継承の推進】 ・旧篠原家住宅については、文化財価値を損なわないよう関係者と連携しながら耐震対策工事を行っていく。 ・表示板の維持・管理については、文化財調査員とも連携を図りながら、定期的に現状を把握し、適切に対応していく。 | |

| NO. | 事業名 | 政策の柱 政策 | 施策名 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 事業の目的 | 事業内容 | | 事業の 進捗 | R6 事業費 (千円) | 開始 年度 | 日本一 施策 事業 | 「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」 | 見直し (予定) |
|-----|--------------------------|------------|-----------------------|--------------------------------|--|--------------------|---|-----------|-------------------|----------|-----------------|--|-------------|
| | | | | | | 対象者・物 (誰・何に) | 取組(何を) | | | | | | |
| 59 | うつのみや百人一首市民大会交付金 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | 本市ゆかりの百人一首に触れ親しむ機会の創出を通じて、郷土愛の醸成と本市のブランド力の向上に寄与する。 | うつのみや百人一首市民大会実行委員会 | ・うつのみや百人一首市民大会の開催 ・連生記念全国競技かるた宇都宮大会の開催 ・百人一首普及啓発事業の実施 | 計画 どおり | 6,914 | H8 | 独自性 トップクラス | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】市民大会及び全国競技かるた宇都宮大会を実施、記念事業を通じた普及啓発活動の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以前の参加者には届かないものの、前年の参加者を大きく上回ることができ、両大会を無事に開催することが出来た。 ・市民大会が第30回目の節目を迎えたことから、大会の認知向上や参加者の増加に向けた普及啓発の取組みとして、漫画「ちはやふる」の原画展の開催、百人一首デザインマンホールの設置、初心者向けかるた講習会などを実施し、認知度の向上を図り、参加者増加につなげることが出来た。 <p>【②今後の取組方針】市民大会の参加者増と普及啓発活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百人一首の認知度の高まりや普及啓発事業の効果などにより、市民大会、全国大会ともに参加者が増加してきており、今後、円滑な大会運営を確保するための適正な事業規模や運営スタッフの確保について引き続き検討していく。 ・大会の盛り上がりを含め市内外へ効果的なPRを行い、「百人一首のまち」の認知度やブランド力の向上を図っていく。 ・百人一首デザインマンホールについて、上下水道局と連携し、引き続き、新たなデザインのマンホール蓋の作成・設置を行い、市内外に向け、本市と百人一首のゆかりについての周知啓発を行う。 | |
| 60 | ジャズのまち普及事業補助金 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | ジャズを核とした幅広い音楽の振興を通じて、郷土愛の醸成と地域の活性化に寄与する。 | うつのみやジャズのまち委員会 | ふれあい文化教室・ジャズセミナー・学校普及ジャズ等の実施 | 計画 どおり | 1,444 | H22 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】子供から観光客まで、市内外に広くジャズのまちを普及するための各種事業の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度末に休止状態となっていた「まちかどピアノ」は、令和6年9月末から『若者まちなか活動交流センター』の協力を得て設置することができた。 ・また、子どもたちが本市ゆかりのジャズに親しむ機会を増やすため、学校に専門講師を派遣する「ふれあい文化教室」、一般公募で参加者を募る「ふれあいジャズセミナー」を実施した。 <p>【②今後の取組方針】市内外に向けた『ジャズのまち宇都宮』推進のための各種事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽のあふれるまちの更なる活性化に向け、各種事業の魅力の向上・発信に努める。 ・「まちかどピアノ」については、新たな設置個所として、一条中跡地にオープンするスーパーの地域交流エリアで設置できる目途がついたことから、円滑な運用に向けた調整を行う。 ・ライトラインのジャズライブに向けたイベント実施のために宇都宮ライトレール株式会社と調整を行う。 | |
| 61 | 妖精資料活用事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | 戦略事業 | 妖精ミュージアムを核とした妖精資料の普及啓発を通じて、中心市街地の活性化に寄与する。 | ・市民 ・来館者 | 企画展の開催、ギャラリートーク・読み聞かせ等の実施 | 計画 どおり | 1,613 | H19 | 独自性 トップクラス | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】特色を生かした展示事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井村名誉館長やボランティア団体と連携を図りながら、ギャラリートークをはじめとした魅力ある企画や円滑な施設運営を行った。 ・自主企画展「イギリス妖精絵本の歴史展」を開催した。 <p>【②今後の取組方針】親子をターゲットとした企画等の充実及び施設特性を生かしたPRの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆうあいひろばとの連携を図り、ファミリー向けの企画など魅力的な事業の企画に取り組むほか、全国的にも稀有な妖精ミュージアムとして、SNSを活用してイベント情報を随時発信するなど、市内外への効果的なPRを行う。 | |
| 62 | 「よみがえれ！宇都宮城」市民の会活動支援補助事業 | IV-8 | 暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進 | | 市民が主体となった宇都宮城の歴史の伝承及び郷土愛の醸成 | 「よみがえれ！宇都宮城」市民の会 | 宇都宮城の歴史の伝承や郷土愛の醸成を目的とする城址まつりや歴史講演会等の活動費の助成・支援 | 計画 どおり | 4,802 | H14 | | <p>【①昨年度の評価(成果や課題)】宇都宮城址公園を活用した事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「宇都宮城址まつり」を開催し、多くの方が宇都宮城の歴史に触れられる機会を創出できた。(来場者13,000人) ・「宇都宮城桜まつり」を開催し、市内でいち早く桜が見られる宇都宮城址公園の魅力をもっと多くの方に認知いただく機会を創出できた。(来場者5,000人) ・「宇都宮城址まつり」や「宇都宮城桜まつり」において、キッチンカー出店の充実や新たな御城印の作製販売など、実施内容の充実に努めた。 ・「宇都宮城桜まつり」における「お子さま向け和装体験」では、これまで当日先着順の受付としていたところ、令和6年度から「宇都宮市電子申請共通システム」による事前予約制を導入し、利用者の利便性向上及び運営側の事務処理の効率性向上に寄与した。 ・安定的で確実な自主財源の確保を図るとともに、事業内容の充実や効果的な周知啓発による市民の会の認知度向上を図る必要がある。 <p>【②今後の取組方針】市民の会主体の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定的な活動を継続するため、ニーズを捉えたオリジナルグッズやパンフレット等を製作・活用し、物販売上や会員数の増加を図る。 ・市民の会の活動により参加しやすくなるよう、デジタル等の積極的な活用やあらゆる機会・手段を捉えた積極的なPRにより、より多くの会員の確保に努める。 | |

| NO. | 事業名 | 政策の柱 — 政策 | 施策名 | 好循環P ・ 戦略事業 ・ SDGs | 事業の目的 | 事業内容 | | 事業の 進捗 | R6 事業費 (千円) | 開始 年度 | 日本一 施策 事業 | 「①昨年度の評価(成果や課題)」と「②今後の取組方針」 | 見直し (予定) |
|-----|--------------------|-----------------|-------------|--------------------------------|--|---------------------|--|-----------|-------------------|----------|-----------------|--|-------------|
| | | | | | | 対象者・物 (誰・何に) | 取組(何を) | | | | | | |
| 63 | 宇都宮ブランド戦略の推進 | IV-9 | 都市ブランド戦略の推進 | 好循環P 戦略事業 | 本市の魅力や都市イメージの向上により、市民の誇りや市外からの憧れなど愛着を獲得する。 | 市内外の人、企業等 | 本市の魅力を知ってもらい「認知」の取組と好きになってもらう「信頼」の取組の推進 | 計画 どおり | 112,063 | H20 | 先駆的 | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):効果的なインナーブランディングとアウトナーブランディングの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の市民や事業者に、「宇都宮」への愛着や誇りをより深めてもらえるよう、NCCを基盤としたまちづくりなど、都市の魅力を伝えることを目的とした講演会等を宇都宮東高校などで開催したほか、市ホームページやSNSなどを通じた愉快市民・愉快ショップ・オリジナル愉快ロゴの普及促進を図ったところであり、愉快ロゴについては、平成22年に事業を開始して以降、申請件数が累計で1,500件を超えた。 また、東京圏の若者世代や子育て世代に、本市の魅力を認知してもらうよう、「充実した子育て環境」や「大人も楽しめる暮らしの魅力」など、「都市の魅力・実力」をPRするCM動画を新たに制作し、テレビCMやインターネット広告、鉄道広告など、多様な媒体を連動させた戦略的なプロモーションを行った(関東圏視聴者数:1億4,200万人(推定値))ほか、新たなマスコットキャラクター「餃子犬じゅうべえ」像を若者が多く集まる渋谷駅に設置するなど、本市のイメージアップや来訪意欲の喚起につなげた。 子育て施策などの充実のほか、ライトラインの西側延伸やウォークアブルなまちづくりの推進など、今後、まちづくりが劇的に進展し、本市が全国・世界からますます注目を集めるタイミングを捉えながら、引き続き、その好機を逃すことなく、市内外のターゲットに合わせた戦略的なシティブロモーションを更に充実する必要がある。 <p>【②今後の取組方針:本市への来訪や移住・定住の促進につながるプロモーション等の充実・強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民参加によるまちの活性化や、本市への来訪、移住・定住の促進につなげられるよう、引き続き、愉快市民や愉快ショップなどの愉快事業を通じ、本市市民のシビックプライドの醸成を図る(インナーブランディング)とともに、主に東京圏の子育て世代や若者を対象に、テレビCMやデジタルマーケティングのほか、東京圏の屋外ビジョンも新たに活用しながら、本市の住みやすさや賑わいなどの魅力をPRする機会を創出する(アウトナーブランディング)など、プロモーション等の充実・強化を図っていく。 | 拡大 |
| 64 | 東京圏から本市への移住・定住等の促進 | IV-9 | 移住定住支援の充実 | 好循環P 戦略事業 | 本市へ移住・定住する人の増加 | 東京圏を中心とした、本市外に在住する方 | <ul style="list-style-type: none"> 東京圏における移住定住プロモーションを通じた本市の魅力や情報の発信 本市での生活等について理解を深められる体験事業の実施 移住定住相談窓口miyacomeにおける相談受付 本市における各種支援制度の利用促進 | 計画 どおり | 141,813 | H28 | 独自性 トップクラス | <p>【①昨年度の評価(成果や課題):情報発信や経済的支援等による移住・定住促進策の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京圏の子育て世代などに本市の魅力を知ってもらえるよう、在東京キー局におけるCM放映や鉄道広告など、多様な媒体を効果的に連動させた戦略的なプロモーションを展開するとともに、宇都宮の住まいに関する情報発信を強化するため、宇都宮空き家会議と連携しながら、空き家・空き地バンクのホームページをリニューアルオープンした。 移住の検討熟度を高めてもらえるよう、宇都宮市移住定住相談窓口「miyacome」における移住相談と組み合わせた「みや暮らし体験事業」を実施したほか、移住検討者が地域のキーマンやコミュニティと出会えるツアーの実施回数を拡充した。(R5:3回⇒R6:4回) 市外の方が安心して本市に移住することができるよう、「miyacome」において継続的に相談支援を行ったほか、包括連携協定の活用によるイートヨーカドー(赤羽店)での本市独自の移住相談会の開催や、関西圏における大規模移住フェアへのブース出展など、移住相談の機会を拡充したことで、移住・定住に係る相談の延べ件数は、過去最高値の642件(R5比約1.2倍)に増加した。 本市での定住促進に向け、東京圏通勤・通学支援補助金を実施しているところであり、市ホームページや広報紙などによる周知に加え、移住相談窓口での案内を徹底したことなどにより、利用者の増加につなげた。(R5:83人⇒R6:143人 ※約1.8倍増)また、移住者同士が宇都宮での暮らしに関する情報などを共有する移住者交流会を新たに実施した。 ポスト・コロナ禍において東京圏への転出超過の拡大が懸念される中、本市を移住先の候補の1つとして認知してもらえるよう、本市の魅力発信を強化する必要がある。また、本市に安心して移住・定住してもらえるよう、ニーズに応じた情報提供や交流機会の機会の確保を図る必要がある。 <p>【②今後の取組方針:本市の魅力発信強化とニーズに応じた支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移住・定住につながるよう、メディアやデジタルマーケティングに加え、屋外広告なども活用しながら、戦略的なプロモーションを展開するとともに、空き家バンクと連携した住まいに関する定期的な情報発信を行う。また、移住者の目線によるメッセージ発信にも新たに取り組んでいく。 みや暮らし体験事業やmiyacome等における相談支援を継続的に実施するとともに、移住・定住や、東京圏への通勤通学に係る経済的な支援を継続していく。また、若者の地方移住促進に係る国の動向を注視しながら、東京圏からの若年層の新たな移住・定住促進策についても検討していく。 | 拡大 |